

議員一般質問目次

令和7年第7回定例会

No.	氏 名	通 告 事 項	頁
1	隅 田 翔	1 クマ対策について	1
		2 デジタル化の推進について	2
		3 ふるさと住民登録制度の活用について	3
2	木 村 公 也	1 町道等の一斉点検の実施を	4～5
3	宮 坂 千 尋	1 シニアカーを含む移動支援策の強化について	6
		2 学校給食費の口座振替導入に関する進捗状況について	7
4	鈴 木 良 徳	1 町内道路の交通安全対策について	8
		2 海岸道路沿いの環境美化について	8～9
5	阿 部 薫	1 石浜港湾埋立地の利活用は	10
		2 総合運動場内の管理と利用マナーは	11
6	高 野 晃	1 住民の不安に寄り添う原発行政を	12
		2 部活動地域移行（地域展開）の方向性は	13
7	佐 藤 誠 一	1 スポーツ振興のさらなる充実を	14
		2 観光戦略の今後はどのように	14
8	宮 元 潔	1 行政区の財政支援と活動の強化策	15～16
		2 安心して子育てできる仕組みづくり	17～18
		3 若者世代の定住促進について	18～19
9	阿 部 律 子	1 個別避難計画と防災訓練の検証は	20
		2 学校給食費の無償化は全員対象に	21
		3 どうなる健康保険証	22～23

【質問者9人・質問事項20件】

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 クマ対策について	日本全国でクマの生息域が拡大しており、出沒や
	人的被害が増加しています。今年度は宮城県内での
	ツキノワグマの目撃件数も過去最多となり、住宅街
	でも目撃されています。隣の石巻市でも目撃件数が
	昨年よりも大幅に増加しています。本町では現時点
	で出沒は確認されていませんが、不安を抱く町民も
	少なくありません。現状の認識や今後の対策等も含
	めて伺います。
	(1) 今年度の近隣市町を含めたクマの目撃情報
	や出沒ルートなどをどのように把握し、備え
	をしているのか伺います。
	(2) 9月1日に施行された改正鳥獣保護管理法で
	は、人の生活圏にクマやイノシシなどの危険な
	野生動物が出沒した場合に、市町村長の判断に
	よって猟銃を用いた駆除を可能にする「緊急銃
	猟」が認められています。本町での緊急銃猟対
	応マニュアルの作成状況について伺います。
	(3) 子供の通学時や地域住民の散歩などで遭遇す
	ることも考えられます。遭遇防止策や万が一遭
	遇した時の対処について伺います。
	(質問の相手：町長、教育長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 デジタル化の推進について	<p>人口減少社会におけるデジタル化の推進は、労働力不足の補完や生活インフラの維持、地域の活性化などに貢献します。デジタル庁では各自治体のDX推進状況を公開しています。本町でも既に取り組んでいる項目はありますが、まだまだ推進すべき項目が多いと考えます。</p> <p>(1) 現在の本町の取組状況をどのように認識し、次年度以降で取り組んでいくのか伺います。</p> <p>(2) 自治体によるAI活用が活発に進められており、業務効率や住民サービス向上に大きな効果をもたらしています。活用方法としてはチャットボットなどの問合せ対応、文章作成・管理、データ分析、業務自動化など多岐に渡ります。本町での導入について見解を伺います。</p> <p>(3) 図書館での図書貸出については、「よく使う32手続きのオンライン申請利用状況」にも含まれている項目です。3月定例会でも自動検索システムの導入について取り上げましたが、次年度以降に向けた取組状況について伺います。</p> <p>(質問の相手：町長、担当課長)</p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 ふるさと住民登録制度の活用について	国は、「地方創生2.0」実現に向けた取り組みとして関係人口に着目し、居住地以外の地域に継続的に関わる方を登録できる「ふるさと住民制度」の創設に向けた検討が進められています。ふるさと住民は居住地以外の自治体にアプリ等で登録することにより、自治体から登録証を発行してもらい、地域の情報提供や行政サービスを受けられる仕組みです。
	本町で実施した場合の対象としては、震災からの復興でつながりのある方や観光客、二地域居住者、ボランティア希望者など多様な方が想定されます。
	そこで制度の検討や取組について伺います。
	(1) 総務省は早ければ来年末から「ふるさと住民制度」を始めますが、本町で導入の検討をしているのか伺います。
	(2) 制度活用により関係人口が増加することで、登録者との関係性がさらに深まり、ふるさと納税の利用や将来の移住や定住といった可能性も高まると考えますが、実施検討についての見解を伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 町道等の一斉点検の実施を	東日本大震災後に整備された道路については、
	盛土や切土をした造成地に整備されました。整備
	されてから10数年が経過し、道路の陥没や路面の
	ひび割れ、側溝の蓋などの破損が多くあり、通行
	車両や歩行している高齢者が気を付けなければな
	らない状況が見受けられます。
	また、旭が丘地区、浦宿地区、内山地区や宮ヶ
	崎地区の一部は、新たな水道管の布設など道路を
	掘削した地区があり、どうしても道路面に段差が
	生じてしまいます。
	これらの道路も整備されてから数十年が経過し
	ていることから、町道全体の点検が必要であると
	考えますが、次の点について町の見解を伺います。
	(1) これまで建設課や上下水道課では、日常の
	パトロールを実施しているほか、道路等の維
	持管理を業者に委託していますが、道路維持
	管理委託業務内で具体的に修繕した場所はあるのか、また路面陥没の影響により下水道の
	マンホール及び上水道管の仕切弁や消火栓が
	道路面より隆起、または陥没するなどしたと
	きはその修繕の担当課は建設課なのか上下水

質 問 者 木 村 公 也

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	道課なのか、併せて伺います。
	(2) 復興事業による造成地に多くの住宅が建設されている本町の状況を鑑みて、町道全体の点検が必要であると考えていますか。
	(3) 町内にある宮城県で管理している漁港用道路や用地また港湾用道路や用地について、修繕等管理上問題がある箇所があった場合には、やはり地元自治体が県の担当部署に連絡をするなど情報の提供が重要であると考えますが、これまでどのような体制になっていましたか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 シニアカーを含む移動支援策の強化について	近年、高齢者の移動手段としてシニアカーの利用が広がりを見せています。町内でも、運転免許証を自主返納した方やこれから自主返納を予定する方から、「シニアカーに興味があるが、実際に乗ったことがなく不安だ」「どこで試乗ができるのか分からない」「購入手続きや制度の情報が複雑」といった声が寄せられています。そこで以下について伺います。
	(1) シニアカーに興味を持つ町民が安全に体験できるよう、総合体育館などの町民が訪れやすい場所に、試乗・乗車体験ができる環境を整える考えは。
	(2) シニアカー購入を検討する高齢者に対し、機種選定や必要な手続き、利用できる制度や補助の案内など、町が相談支援体制を整備することについて、町の見解を伺います。
	(3) 他自治体では、シニアカー購入に対して助成制度を設けている例もあります。高齢者の移動支援・外出促進の観点から、本町でも補助金制度を検討しては。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 学校給食費の口座振替導入に関する進捗状況について	昨年、学校給食費の徴収方法について、現在の現金回収方法のリスクや教職員の負担を指摘し、口座振替への移行を提案しました。その際、滞納のない状況を維持しつつ、教職員の負担軽減と保護者の利便性向上のため口座振替導入を前向きに検討するという答弁をいただいています。
	しかし、あれから一年以上が経過しても、具体的な導入方針やスケジュールが示されていません。そこで、検討状況と今後の見通しについて伺います。
	(1) 具体的にどのような検討が行われたのか伺います。
	(2) 現金回収方式によって、教職員が毎月どれほどの時間を現金管理に費やしているのか、町として把握しているのか伺います。
	(3) 口座振替の導入について、町として実施するかしないかの判断をいつまでに示すのか、具体的な時期を伺います。
	(質問の相手：教育長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 町内道路の交通安全対策について	(1) 駅前からしおかぜ保育所に向かう途中の交差点で、事故が頻繁に起こっていると思います。
	先月も朝の子供たちの通学時間帯に事故が発生しており、一歩間違えば登校中の子供たちの列に突入していたかもしれません。
	事故が多い交差点との認識はしていますか。
	(2) 大原住宅方面から来る車は、清水地区方面から来る車が視認しにくい構造の交差点になっています。
	カーブミラーの設置やカラー舗装等の安全対策を検討してはいかがでしょうか。
	(質問の相手：町長、担当課長)
2 海岸道路沿いの環境美化について	以前にも何度か質問していましたが、海岸の道路沿いの緑地帯について伺います。
	緑地帯が雑草に覆われており、観光客等を迎え入れるスポットにしては、非常に残念な状況になっています。みなと祭り前に、町内団体の寄付により花を植えることができおり、10月にも第2回目として、すばらしい女川を考える会や女川高等学園の生徒さんや商工会女性部、一般町民の

質 問 者 鈴 木 良 徳

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	皆さん、約70名で花を植えました。
	(1) 今回、花を植えた場所以外のファミリーマー
	トさんから角浜に曲がる丁字路までの緑地帯に
	ついて、来年、町政施行100周年を迎えること
	から、色々なイベントが実施されることで来町
	する方々も増えると思われますので、何か町と
	して検討されていますか。
	(2) 県道等の雑草の処理に関しては、県の道路管
	理で一度は実施されていますが、それ以外のタ
	イミングで雑草が伸びている場合、海岸広場の
	指定管理者に指定管理区域内の除草に合わせて
	一緒に刈ってもらえるようにお願いすることは
	できないでしょうか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 石浜港湾埋立地の利活用は	去る11月17日の臨時議会において、令和7年度の
	の女川港石浜地区埋立工事の行政報告がありました。
	昨年までは復興事業や出島大橋の組立作業の
	現場として活用されてきましたが、工事等が完了
	したことにより現在は遊休地となっています。
	そこで、今後の利活用について伺います。
	(1) 埋立てされた面積と主な用途、また、隣接
	する土地も含めた今後の利活用の見通しにつ
	いて伺います。
	(2) 石浜地区でプレジャーボート等の係留が増
	えてきていると感じますが、この場所を小型
	船舶の係留や陸上保管が可能な場所にして活
	用を図ってはいかがですか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 総合運動場内の管理 と利用マナーは	年々、総合運動場施設の利用者も増えています。
	体育館では柔道やバスケット。多目的運動場ではサッカー。野球場では大会も開催され、町内の各種団体の活動も活発に行われています。
	(1) 大会などで来町される選手や保護者と一緒に来た小さい子供も楽しんで利用できるようなフィールドアスレチック広場や芝生広場の管理と遊具等の新設の検討はされていますか。
	(2) 大会等の開催時には多くの大会関係者や参加者が来町しますが、交通事情から自家用車での来町が多いことが予想されます。総合運動場の駐車スペースは十分にありますか。
	(3) 各種の競技団体関係者をはじめ、町内外問わず多くの方が施設を利用しスポーツ活動を通じて健康増進も図っていますが、一部利用者の喫煙マナーの悪さを見かけます。施設敷地内が禁煙であることを周知する手段、例えば禁煙を示す看板の設置を行い、マナー向上の取り組みを行ってはと考えますが、見解を伺います。
	(質問の相手：教育長、担当課長)

質 問 者 高 野 晃

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 住民の不安に寄り添う 原発行政を	<p> 昨年の12月26日に営業運転を再開した女川原発 2号機ですが、乾式貯蔵施設の進捗や機器の不具 合等の問題がプレスリリースされていますが、そ の中で疑問を抱いた点について伺います。 </p> <p> (1) 5月26日及び6月20日に不具合が確認され た水素濃度検出器の案件について詳細を伺い ます。 </p> <p> (2) 10月22日の定期点検中に手動での動作が不 能になった制御棒について原因と対策等を伺 います。 </p> <p> (3) 7月29日に詳細設計に関わる「設計及び工 事計画認可申請書」について、準備が整い次 第、原子力規制委員会に提出としていました が、既に提出していますか。また、再処理工 場で処理できない燃料であった場合、乾式貯 蔵施設に使用済み燃料が貯蔵されたままにな ると懸念されますが、その場合の対応につい て伺います。 </p> <p> (質問の相手：町長、担当課長) </p>

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 部活動地域移行（地域展開）の方向性は	国から令和7年度までに休日の部活動を段階的に
	地域へ移行、令和8年度から6年間をかけて平日の
	部活動も地域に移行させる方針が示されており、県
	内各自治体でも取組が進められており、教員の負担
	軽減や地域スポーツ、文化活動の活性化、生徒の多
	様な学びの機会を保障する観点からも、地域移行は
	避けては通れない課題となっています。
	そこで、現在の課題認識と今後の方向性について
	伺います。
	（1）部活動地域移行の概要を伺います。
	（2）女川中学校における部活動地域移行の進捗状
	況と、部活動の地域移行を進めていくうえでの
	課題を伺います。
	（3）来年度より改革実行期間とのことですが、今
	後の女川中学校の部活動地域移行に関する方向
	性とロードマップの作成は行いますか。
	（質問の相手：教育長、担当課長）

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 スポーツ振興のさらなる充実を	総合運動場、学校開放事業、勤労青少年センター等の施設の利用申請窓口が異なっていると認識しており、利用者からの不満の声も聞こえます。
	窓口のＯＳＳ（ワン・ストップ・サービス）を復活してはいかがでしょうか。
	（質問の相手：町長、教育長、担当課長）
2 観光戦略の今後はどうのように	以前、本町の山道、遊歩道等の整備計画を質問した経緯がありますが、現在の改善状況とトレッキングコースや登山コースマップの作成等、女川町の自然と文化財を融合した観光戦略は、どのように進めていきますか。
	（質問の相手：町長、担当課長）

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 行政区の財政支援と活動の強化策	行政区（自治会）は、防災、福祉、環境、文化
	活動など、町の基盤を支える重要なコミュニティ
	単位であり、その活動を財政的に支える「地区自治活動事業補助金」は欠かせません。
	しかし、近年の物価高騰は行政区が支出する消
	耗品費やイベント運営費を直撃し、補助金の相対
	的な価値を大きく目減りさせています。さらに、
	昨年までコミュニティ活動を力強く支えてきたア
	サヒホールディングス様からの支援を原資とする
	補助制度が終了したこともあり、行政区は現在、
	物価高騰と支援減少という二重の財政的圧力に直
	面しています。
	したがって、町のコミュニティ基盤が揺らぐこ
	とのないよう、行政による財政支援を抜本的に見
	直し、持続可能で活発な行政区活動を支える仕組みが必要と考えます。
	（１）震災以降、復興支援としていただいていた
	民間からの支援が減っていく現状と、物価高
	騰による行政区財政の逼迫を町はどのように
	認識しているか。今後、このような状況変化
	に応じて、地区自治活動事業補助額を自動的

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	かつ柔軟に調整できる仕組み（スライド制や臨時加算など）を導入して、コミュニティ活動の継続を保障する仕組みなどの考えはあるのか伺います。
	（２）限られた行政区の予算の中で、防災訓練や地域事業、高齢者見守りなど、町の重点施策に資する活動を確実に実施してもらうため、その活動に対して加算補助を制度化する方向性がありますか。
	（３）100周年から200年に向けて、役員の高齢化や担い手不足といった構造的な課題を抱える行政区を、町としてどのように支え、持続可能な仕組みを構築していくのか。財政支援にとどまらず、行政区活動を支援する職員体制の強化やデジタル化支援などによる活動の効率化といった行政区運営を効率化するための具体的な方針があるのか伺います。
	（質問の相手：町長、担当課長）

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 安心して子育てできる 仕組みづくり	現在の高校通学費補助制度はとても役立っており評価できますが、補助する地域が中途半端に東松島市までにとどまっていたり、また、高校卒業後の大学・専門学校生の通学に対する支援がないため、子供たちが将来の進路を選択する際、経済的な壁になります。特に、進学先の多くが集中する仙台圏への移動コストは、子育て世代にとって非常に大きな負担となり、「進学に伴う町外への転出」を事実上強いられている状況です。
	女川町が「未来への投資」として、高校卒業後も支援を継続し「女川で子供を育てられれば、進学を諦めずに済む」という明確な安心感を町民に提供すべきだと考えます。
	そこで、高校通学費補助の見直しに加え、大学生や専門学校生への支援拡充、特に定住につながる奨学金返還補助制度の導入など、具体的な支援策のロードマップ作成について、町の積極的な姿勢が必要と考えます。
	(1) 現行の高校通学費補助が「中途半端に東松島市までの支給」にとどまっている現状をどう認識しているか。また、若者の流出抑制と

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 若者世代の定住促進 について	定住促進という目的達成のため、大学や専門学校に通う学生（特に仙台圏）への支援拡充を未来への投資と捉え、具体的な制度設計に着手すべきではないでしょうか。
	（２）単なる通学費補助にとどまらず、学生が卒業後に女川町へＵターン・定住することを条件に、奨学金返還を補助（または肩代わり）する制度を検討すべきではないか。この「定住連動型」の支援策は、若者に対して強力な定住インセンティブを与えるものと考えられますが、町の所見を伺います。
	（質問の相手：町長、教育長、担当課長）
	「若い世代の定住」を確実にするためには、働く環境、すなわち雇用の確保が不可欠です。女川町内の雇用機会だけでは、専門的なキャリアや多様な職種を求める若者世代のニーズを満たすことは困難です。この「仕事の壁」が若者のＵターンや定住を阻む最大の要因となっています。
	（１）「仕事は仙台圏、生活は女川町」という新しいライフスタイルを推進するための支援策を提

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	案します。高額な仙台圏への通勤費を町が補助
	する「通勤者向け交通費補助制度」を導入する
	ことで、若者世代が経済的に心配なく女川町に
	住み続け、仙台圏でのキャリアを築くことが可
	能になります。これは単なる補助金ではなく、
	女川町へ若い世代の人口定着を促して、町内で
	の住宅取得や消費活動を維持、拡大するため、
	きわめて有効な経済政策だと考えますが、所見
	を伺います。
	(2) 大綱2で質問した「学生の通学支援」と「大
	人の通勤支援」は、子育て世代の経済的負担を
	軽減する点で強い相乗効果があります。二つの
	支援策を統合して「女川町定住支援パッケージ
	(仮称)」として分かりやすく打ち出すことに
	より、町外への転出検討者や町内への転入希望
	者に強力なメッセージを発信できるものと思ひ
	ます。また、移住定住促進の広告宣伝のキャッ
	チコピーにも活用できると考えますが所見を伺
	います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 個別避難計画と防災訓練の検証は	令和7年11月15日に実施された原子力防災訓練で
	すが、同僚議員と登米総合体育館まで移動し視察し
	てきました。
	今回、女川町の参加数は4行政区で36人とのこと
	ですが、次の点について伺います。
	(1) 避難先を特定しての参加者募集とのことですが、具体的にバスや自家用車の割り振り等、どのような準備をし、今後さらに参加者を増やす対策は。
	(2) 今回の携帯アプリ活用の状況と活用できない人への対応は。
	(3) 避難行動要支援者の数は令和5年4月1日現在で1546人とのデータがあります。
	特に一人暮らしで、歩くことが困難な方には個別避難計画があると思いますが、現状はどのようなになっていますか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 学校給食費の無償化 は全員対象に	現在、学校給食費は一部無償化となり、第2子以降と扶助費を受けている子供たちで約6割が無償化の対象となっています。
	今回、国の方針として2026年度から全国一律に小学校の給食の無償化が示されていますが、中学校はその後との情報です。
	(1) 改めて、無償化の対象となる小中学校それぞれの扶助費対象者数と第2子以降の対象人数はどうなっていますか。
	(2) 少子化の中で出生数の減少が気になります。
	令和6年度は17人、令和7年度は21人の見込みとのことですが、このような状況が続けば、第2子以降の無償化の人数は極わずかではないでしょうか。どのように考えていますか。
	(3) 来年度、国の方針で小学校の給食費の無償化が示されていますが、中学校はまだです。
	来年度の女川町町制施行100周年となる記念の年に、国に先んじて、小中学校全員を対象とした学校給食費の無償化を実施してはと考えますが、見解を伺います。
	(質問の相手：町長、教育長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 どうなる健康保険証	厚労省は12月 1 日で従来の健康保険証全ての有効
	期限が切れるとし、以降はマイナ保険証に切り替え
	るよう盛んに宣伝しています。
	(1) 12月 1 日で期限切れとなるのは、会社員や公
	務員などが加入している被用者保険の約7700万
	人ですが、以降は「資格情報のお知らせ」が届
	くとしています。
	国保や後期高齢者医療保険の加入者には「資
	格確認書」が届き、マイナ保険証のない人にも
	通常の保険診療が受けられますが、「資格情報
	のお知らせ」も同じように保険診療が受けられ
	ると理解して良いですか。
	(2) マイナ保険証を持っている人は全人口のうち
	7 割、マイナ保険証の利用率は37.14% (10月
	末) とのデータですが、本町の実態は。
	(3) マイナ保険証の取得は任意ですが、「資格情
	報のお知らせ」の利用は来年 3 月末までの暫定
	的な対応、国保や後期高齢者医療などの「資格
	確認書」は 7 月末までの暫定措置とあり、その
	後はどうなるのかとの不安の声もあります。き
	ちんと保険料を納入しているのですから、その

質 問 者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	後も町として国の指導を受けながら「資格確認
	書」を全員に交付すべきと考えますが。
	(質問の相手：町長、担当課長)